

元気いっぱい 友だちいっぱい

横浜市立美しが丘小学校

令和4年2月28日

すすんで学ぼう 夢つくり



美小通信 11

横浜市情報教育ネットワーク(YY ネット)上に本校のホームページがあります。
URL : <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/utsukushigaoka/>

学校長 松瀬 歩
青葉区美しが丘2丁目29
電話(901)3408

2月22日、美小「ピンクシャツデー」

副校長 小島 多加江

ちがう見た目。ちがう考え。

ちがうことは当たり前。ちがうことは大切な個性。

互いを認め合うピンクシャツデーは、カナダの高校生が始めた「いじめ反対」運動です。

【ピンクシャツデーとは…】

2007年、カナダ。ある男の子が、ピンク色のポロシャツを着て登校したことを発端に、いじめにあいました。それを知った上級生の男子2人が、いじめをやめようとピンク色のシャツを買い集め、「明日、みんなでピンクのシャツを着よう!」と呼びかけました。

翌朝、そこには、自らピンク色のシャツや小物を身に付けて登校する生徒たちの姿がありました。彼らの呼びかけを知った多くの生徒たちが賛同。学校中がピンク色になったのです。これによって、いじめを受けた生徒は安心して学校に通えるようになり、その学校でのいじめは自然になくなったといえます。

この話が広まって、2月の最終水曜日にピンク色のシャツを着たり、ピンク色の物を身に付けたりして「いじめ反対」という気持ちを表し、「いじめをなくそう」という運動になったのが「ピンクシャツデー」です。



ピンクシャツデーのポスター

美小でも、その考えに賛同した児童会の児童が全校に呼びかけ、それぞれがピンク色の何かを身に付け、1日を過ごしました。ピンクのネクタイを締めた校長をはじめ、ピンクの洋服やピンクのマスク、ピンクの名札など、子どもたちは思い思いに身につけ、美小はピンクで溢れました。

正門横にある梅も、ピンクの花をきれいに咲かせ、ピンクシャツデーを応援しているようでした。

今、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、世の中がとても不安定になっています。

そんな時代に、ピンクシャツデーの取組をすることで、美小の子どもたちは、「一人ひとりが傍観者にならず、自分ではない誰かのために行動する。」「友達の個性を認め、尊重する。」という安心できる温かい風土をつくり出しているように思いました。

いじめ防止は、この日一日だけ取り組めばいいものではありません。また、ただピンク色の物を身に付けるだけでいいではありません。しかし、いじめを見て見ぬふりをしない学校にしていくために、何かをきっかけに取り組んでいくことはとても大切だと考えます。それが、児童会からの提案であり、教職員も巻き込んだ大きな取組になったことは、たいへん素晴らしいことです。「いじめを許さない」という強い信念をもって活動した美小の子どもたちを、さらに誇りに思えた1日となりました。